



難民キャンプの子どもたち

レバノンシリア難民の子どもたちの教育事業開始

パルシックは2017年度からレバノンでシリア難民の子どもたちのための教育支援を開始します。シリアとの国境に近いベカー州高原ザハレ郡のダルハミーヤ・キャンプで、隣接する農地を借り、仮設教室を設置して6歳から11歳の子どもの対象にアラビア語、数学、理科、社会などの初等教育を実施し、レバノンの公立学校への編入が可能となるよう支援します。レバノンでもっとも難民の多いベカー州では初等教育の年齢に相当するシリア難民の子どもたちの70%が学校に通っていません。レバノンの公立学校は難民の子弟を受け入れてはいますが、もともと公教育が十分に発達していないうえに、予算も限られているので収容できる人数に限りがあります。およそ1600世帯の難民が住むダルハミーヤ・キャンプの近くには公立学校がありません。農村でのテント生活では働く場が限られ、現金収入のない難民世帯はレバノンの公立学校へ子どもを通わせるためのバス代も捻出することができません。レバノンにシリア難民が流入してから、2017年末で6年が経ちますが、その間、一度も教育を受ける機会がない子どもが大勢います。今後、この子どもたちがいつシリアに戻ることができるか分かりません。レバノンで、あるいは他の地域で働くことができるようになるかもしれません。いずれにせよ読み書きや算数などの基礎的な学力を身につける機会もなく、同世代の子どもと友達になる機会もなく成長していくことは悲しいことです。人生の大きな損失になると考えます。難民キャンプでは食糧も、仕事も、衛生用品も足りないことは多々ありますが、パルシックは今年、子どもたちの教育に尽力したいと考えています。すでに近くで同様の学校を運営しているSawa for Development & AidというレバノンのNGOと提携して事業を進めます。みなさまのご支援、ご協力をお待ちしています。

(この事業は、ジャパン・プラットフォームの助成と、皆様からのご寄付で実施します。)

目次	レバノン シリア難民の子どもたちの教育事業開始…… 1	東ティモール 女性事業 『アロマ・ティモール』誕生から半年/ため池を利用した小規模灌漑事業開始/東ティモールコーヒー協会設立!…… 5、6
	シリア難民の状況 7年目に入ったシリア紛争…… 2	マレーシア PIFWANITAの成長とPIFWAの環境教育への取り組み…… 6
	トルコ 長引く難民生活に望まれる支援を…… 2	フェアトレード 『アロマ・ティモール』の効能と飲み方/ハーブティーをつくる女性たちの1コマ/名古屋フェアトレードイベントに参加!…… 7
	パレスチナ ガザ ラマダンに向けて食用動物の生産拡大/西岸地域の循環の輪を広げていくために…… 3	パルシックからのお知らせ Webサイトリニューアル!! /マレーシアへのスタディツアー実施/シリア難民支援 /パレスチナ支援の事業報告会/ご支援のお願い…… 8
	スリランカ サリー事業 国際女性デーにコロンボでイベントを開催/内陸部の淡水池で生簀を設置し稚魚を蓄養…… 4	

シリア難民の状況―7年目に突入したシリア紛争―

シリアでの紛争が始まって7年目となりますが、現在もシリアやイラク国内では激しい戦闘が繰り返されています。国連が中心となって和平会議が定期的に開催され、一部のシリア国内での停戦合意がなされ始めてきていますが、依然としてシリアとイラクでの完全な停戦には至っておらず、国連の統計によると現在までに25万人以上が犠牲となっています。

周辺国には約500万人のシリア人が越境し、避難生活を送っています。ヨルダンでは、もともと夏になると水不足で一般家庭の水が止まることもありましたが、多くのシリア人がヨルダンに滞在している現在、水問題はさらに深刻となり、シリア人の滞在しているコミュニティでは、水が止まる度に、ヨルダン人がシリア人に対して不満をぶつけ、軋轢が生じています。レバノンでは、シリア人は毎年、滞在許可証を更新しなくてはなりません。更新費用の200ドルが大きな負担となり、家族全員が滞在許可証を持っている世帯は全体の21%にとどまっています。滞在許可証がないとシリアへ強制送還される可能性もあるため、生計を立てるために外に出て職を探すことも簡単でない状況です。トルコでも労働許可証がなく低賃金・長時間労働で家計を支えている世帯がたくさんあります。



シリア難民世帯から話を聞くパルシックスタッフ

(大野木)

トルコ 長引く避難生活に望まれる支援を

2015年10月からシリアとの国境県であるトルコのシャンルウルファ県にて、シリア難民の家族への食糧支援を続けてきました。テントや土壁の手造りの住居で、農作業をしながら避難生活を送るシリア人家族の生活状況は、支援開始当初から大きくは変化していません。継続的な食糧支援により最低限の食糧は確保され、多くの世帯で子ども用の食品や衛生品などが購入できる余裕もできましたが、慢性的な食糧不足は続いています。食糧支援だけでなく、シリア人家族が家庭用の農作物を自ら栽培・収穫できるよう、シリア人の食生活や栽培方法に合った野菜（モロヘイヤ、オクラ等）の種を配布し、避難先での家庭菜園の普及も促進しています。

2017年4月からはシャンルウルフ

避難先でも住居前の小さな空間から始められる家庭菜園



シリア難民の子どもの声

ハラさん(10歳)

シリアでは学校に通っていません。トルコの学校ではすべてがトルコ語でわからないし、トルコ人の生徒は仲間にに入れてくれませんでした。シリアでは会社に勤めていたお父さんは、一日中農作業をしていて、主婦だったお母さんも一緒に働かなければならなくなり、友だちもいなくて家で毎日きょうだいと過ごしています。学習活動に参加して、前に習って忘れてしまった文字をまた勉強できて嬉しかったです。もっとたくさん参加したいです。

ア市郊外の村にて、シリア難民の子どもたちを対象とした学習・心理社会的支援活動も開始しました。対象地で生活する学齢期の子どもの80%が、いかなる教育も、また紛争のつらい記憶や厳しい避難生活によるストレスを緩和する支援も受けていません。子どもたちの発達する権利を保護するため、子どもたちが暮らす村々に毎日足を運び、子どもが安心して学び、遊べる空間・時間を提供しています。(高田)

(この事業はジャパン・プラットフォームの助成と、皆様からのご寄付で実施しています。)

■ガザ ラマダンに向けて食用動物の生産拡大

2015年からガザ地区で食肉用のウサギや鳩の飼育セットを配布し、飼育・販売を通じて女性世帯の食糧事情の改善および生計向上を支援しています。2015年に対象とした81世帯に加え、2016年からは新たにガザ中部の2つのコミュニティから97世帯が食用動物の生産活動に加わりました。これら2つの地域は、人口が密集する地域。女性たちも庭の隅や屋上、屋根の上という限られたスペースをうまく活用して動物を飼育しています。

鳥インフルエンザの流行が落ち着いたことから、女性たちから希望のあった鶏

女性世帯の声

アマル・ノウファルさん

2014年の戦争以前は22年間ウサギを飼育していましたが、戦争後はお金がなくて再開できず、社会福祉省からの生活保護に頼っていました。パルシックの支援でウサギの飼育を再開することができ、現在6匹の雌ウサギ、2匹の雄ウサギと56匹の仔ウサギを飼育しています。最近はアメリカに移住した兄に毎日ウサギの状況を事細かに知らせるのが日課になりました。将来もっと大きなウサギ農場を開きたい、という私の夢を兄も応援してくれています。



ウサギの飼育を再開したアマルさん



飼育された鶏

の飼育セットも選択肢に加えました。また、課題であった女性たちの販売や会計に係る能力を強化するための研修も実施しました。食用動物の成長具合と販売価格の関連や季節による市場価格の変動、生産コストと損益計算などについても学び、利益を上げるために、どれくらいの動物をいつ仕入れていつ販売するかの計画を各自が立てて、飼育に取り組むようになりました。

今年のラマダン（断食月）は5月27日に始まりました。ラマダンとラマダン明けの祝祭イードには各家庭がごちそうを用意するため、大量の肉が消費されます。女性たちはラマダンに向けて、生産拡大に尽力しました。（盛田）

（この事業は、ジャパン・プラットフォームの助成と皆様からのご寄付で実施しています。）

■西岸 地域の循環の輪を広げていくために

西岸地区ではナブルス県ジャマイン町において2つの事業を実施しています。

1つ目は耕作放棄地へのオリーブの植樹事業です。1月にパレスチナ内外のボランティア49名が参加して、24世帯の農家の耕作放棄地に約1,000本のオリーブの苗木を植樹しました。現在、オリーブが順調に生育するよう農地のモニタリング、手入れの指導を行うとともに、土壌の保水力を高めるため、農地の周りに石垣の設置を支援しています。

2つ目は循環型社会づくりの事業です。地域の中等学校生徒27名が参加した環境クラブでの環境教育活動の実施と、女性協同組合の29名が参加した地域で排出される生ごみを用いた有機堆肥づくり、作った堆肥を活用した栽培活動に取り組みできました。今年度は、よりよい堆肥を1年を通して生産できるようにするため、

女性組合の共同農園での堆肥づくり



簡易な堆肥舎を建てて活動に取り組みます。参加者の輪も広がりつつあります。女性協同組合のメンバー

オリーブ農家の声

アムジャド・ラテブさん

シュレッターは多くの利点があると思いい、費用の一部を農家で出し合いました。用途の一つはオリーブの剪定枝の粉碎です。剪定枝は大気汚染につながると思いますが、これまでは燃やしてしましました。オリーブ畑に火が移り木を焼失した人もいました。シュレッターを使えば燃やす必要がなくなり、大気汚染もばやも防げます。また粉碎した枝を木の周りに撒いて土壌の保湿剤として使えば、乾季に散布する水の量を節約できます。



シュレッターの試運転の日。左から3番目がアムジャドさん

ーに加え、地域のオリーブ農家が昨年年度の活動を見て関心を持ち、有機堆肥作りに参加し始めました。3月には、これら農家さんの協力を得て、有機堆肥の材料を粉碎する業務用シュレッターを導入し、試運転も行いました。（廣本）

（この事業は、地球環境基金、緑の募金、およびジョンソン・エンド・ジョンソン社会貢献委員会の助成と、皆様からのご寄付で実施しています。）

■サリー事業 国際女性デーにコロナボでイベントを開催

スリランカ北部の女性たちが、南部の女性たちからご寄付いただいた古着サリーをバッグや衣類にリメイクして販売するサリーサイクル事業を実施しています。

国際女性デーに合わせて3月初旬に、コロナボの人気雑貨店「ベアフット」で、サリー事業の広報イベントを行いました。イベントには、スリランカ北部（ジャフナ県・ムライティブ県）でサリー製品の縫製を行う3名の女性が参加し、内戦や津波による被災経験、村での生活やサリー事業への想いについて、来場したお客

さんを前に、各々の言葉で堂々とスピーチをしました。また、イベント会場で寄付された古着サリーから、北部女性がその場でバッグを縫製する実演をし、来場者の関心を集めました。

他に、日ごろ事業を支援してくださっている方々に事業の意義や活動状況につ

いて話していただいたり、活動紹介ビデオの上映やサリー製品の販売会をしたりと、事業を広報するよい機会となったとともに、北部女性にとっても支援者とのよい交流の場となりました。

北部女性からは、「自分たちが製作した商品がおしゃれな場所で売られているのを見られたことが嬉しく、また来場者と直接話ができてとても楽しかった」という感想が聞かれました。今後もこうした交流の機会を設け、より多くの北部女性の参加を促す予定です。

（伊藤 文、籠谷 佳奈）

（この事業は、JICA草の根技術協力事業のご支援と皆様からのご寄付で実施しています。）

■内陸部の淡水池で生簀を設置し稚魚を蓄養

スリランカ北部ムライティブ県の内陸にある淡水池で漁業を営む漁民を対象に、

漁協の強化及び資源管理の技術習得によって、漁民の生活安定を目指す事業を実施しています。事業の要となるのは、淡水魚と淡水エビの放流・蓄養による資源管理です。事業対象地の池に浮き型の生簀を設置し、稚魚を生簀の中で約1、2ヶ月育てた後、池に放流します。半年程度で漁獲の時期を迎え得た収入の一部を漁協に貯蓄し、将来的には漁協の資金で稚魚蓄養を続け、安定した漁獲さらには収入を得られることを目標としています。

生簀設置時には各漁協の漁民が集まり、一日がかりで生簀を組み立てました。急遽、池の畔で生簀の枠の溶接をし直したり、資材の到着が遅れて暗闇の中での作業になったりと、トラブルに多々見舞われましたが、無事に各池で生簀を設置できました。

池に生簀を設置する漁民たち



生簀に稚魚を放った後、餌やり役が特定の漁民に偏

K A I S ゲストハウス営業中！
スリランカで一番美味しいカレー?!

2016年夏にジャフナ

ウンの中心近くに2軒目のゲストハウスがオープンし、より多くのお客様にご利用いただいています。ウェブサイトでどちらも高評価をいただいています。特にK A I S ゲストハウスでの食事は「スリランカで食べた中で一番美味しい食事」との感想をいただくほど好評です。ぜひ、ジャフナにお越しの際は、ご予約のうえ、

K A I S ゲストハウス、またはK A I S シティゲストハウスにお泊りください。ご不明点はパルシックまでお問合せください。（*K A I S



力意す
アウマ
上手さん
料理師が
（お味）
提供を行
（ませ



アッカ手作りの朝食

サリー事業参加女性の声

ブシユバラタさん（ムライティブ県ムリワイカイ村）



ネットのショップで縫製の店を営んでい
ます。内戦後の数年間、家
計を一人で支えていました。
村で受ける注文の数は多く

なく、この事業の収入がとても助けになりました。今回国際女性デーのイベントに参加して、サリーコネクションがコロナボでは多くの人に知られるブランドになっていて実感しました。プロジェクトの一員としてお客さんたちの前で縫製の実演、スピーチができたことはとても名誉で嬉しいことでした。

るなど、漁協全体で役割が分担されていない現状があります。この蓄養事業に対して、漁協全体がオーナーシップ（主体性）を醸成できるよう、時間をかけて取り組む必要があると感じています。4月には生簀から池への稚魚放流が一部完了し、半年後の成魚の収穫を待つ間、漁協の強化や付加価値商品開発の研修などを実施していく予定です。（飯田 彰）

（この事業は日本NGO連携無償資金協力の助成と皆様からのご寄付で実施しています。）

イベント会場の様子



■女性事業 『アロマ・ティモール』誕生から半年

2013年10月から開始した農村女性による生計向上事業は、事業期間が残り1年半となり、安定した商品の生産・販売に向けて取り組んでいます。

女性グループがつくる特産品の統一ブランド「アロマ・ティモール」立ち上げから、半年が経ちました。首都デシリ市内のスーパー、ホテルやレストランでの卸・委託販売を開始し、少しずつ消費者の皆さんへ認知してもらえるようになりました。特にバナナチップスとクッキーはレストランやカフェから定期的に注文を受けており、味の良さだけでなく洗練されたパッケージも好評です。デイリは市場規模としては非常に小さいのですが、安定した品質の商品を継続して生産し、常時スーパーの棚に商品を並べることがどれだけ難しいかを実感しています。

一方、各グループの経験の差も浮き彫りとなってきました。消費者や販売店のニーズをよく知っているグループは、さらに品質を良くしてより美味しいものを提供したい、と向上心が高いのに対し、直接販売や交渉、量産などの経験がない



コバリマ県女性グループ「ラマジュレジュ(Rammajejeju)」の活動拠点で「アロマ・ティモール」商品の販売を開始

グループは、消費者目線で商品を吟味するまでに至っていない側面が見えてきました。品質管理や衛生管理の大切さ、味が良くなければ消費者は離れていくことなど女性たちは耳が痛くなるほどこれまで聞かされているはずですが、生産・営業活動を続けていく中で、今後の課題は尽きません。(林 知美)

(この事業は、JICA草の根技術協力事業のご支援と皆様からのご寄付で実施しています。)

販売先の声

ミシエルさん

(スーパー「リーダー」のマネージャー)

最初に「アロマ・ティモール」の商品を見たときは正直びっくりしました。通常、デイリの市場で地元の生産者から納品される商品は使用材料や消費期限、生産者連絡先などが書かれたラベルがなく、またパッケージも脆くて封が開きやすいものが多いのです。他の生産者には「アロマ・ティモール」のように見栄えのするパッケージを使い、情報もきちんと表示するように促しています。「アロマ・ティモール」の商品はお客様からも好評で継続して売れています。



スーパーの棚に並ぶ「アロマ・ティモール」の商品

■ため池を利用した小規模灌漑事業開始

2015年からマウベシ郡内の4集落に上水施設の設置を進めてきました。2016年11月からは、新しく5集落に上水を設置するほか、ため池を利用した小規模灌漑事業が始まりました。

マウベシでは雨期に降り注ぐ大雨は、ほとんど地面に浸み込むことなく、激しい土砂流となって地表を流れて消えてしまいます。そして数日雨が降らないと、

住民の声

ノエ・ザビエルさん



ノエさん



ノエさんのため池

ハトゥブティ集落の農家ノエさん(30歳)は、5人の子どものお父さん。マウベシで初めてのため池造りに取りかかりました。家族4人で約1週間、すべて手作業で縦5m×横10m×深さ1mほどのため池を掘り、水源からの水を貯めています。このあと農地への灌漑水路を掘る予定です。

ノエさんはとても勤勉な農家で、今回のため池造りの話を聞いて、真っ先に名乗りをあげました。

「すべて手掘りでしたので、とても大変でした。それでも、畑に水を撒くためにがんばりました。完成した今、とても誇りに思っています。野菜作りのほか、魚の養殖にも取り組もうと考えています。」

あつという間に地面が干上がってしまいます。そのため乾期にはほとんど農業が出来ないだけでなく、家畜のための水や生活用水の確保もままならなくなります。

ため池を造成することで水源を保護するとともに、乾期にも農業ができるよう計画しました。

現在までにため池の第1号が完成し、その他3つを造成しています。作業はすべて人力、鍬やスコップを使っている手掘りです。また東ティモールでのパーマカルチャー指導者兼ミュージシャンでもあるエゴ・レモス氏にマウベシまで来ていただき、ため池を用いた水源保護の原理の説明を現場でもらい、その場で作業に取りかかりました。エゴさんの経験で増加することです。(高橋 茂人)

(この事業は、日本NGO連携無償資金協力の助成と皆様からのご寄付で実施しています。)



現場で一緒に作業をするエゴさん(右端)と住民パルシックススタッフ

■東ティモールコーヒー協会設立！

東ティモール独立以来、何度も試みられては不成立に終わった東ティモールコーヒー協会設立の動きが、ようやく実を結びました。コーヒー生産者／組合、仲買人、輸出業者、ロースター、パリスター、小売業者まで、東ティモールでコーヒー産業に関わる総勢20の個人や団体が、4月21日、協会員となって定款を採択しました。

東ティモールは貿易収支が極端に赤字で、石油・天然ガスを除いた輸出総額の9割以上をコーヒーが占めています。しかし、コーヒー畑は老朽化が進んで収量が落ち、多くの生産者が品質改善に取り組んで高品質なコーヒーを出荷しているにもかかわらず、東ティモールコーヒーの知名度は一向に上がりませんでした。こうした問題意識がコーヒー産業全体の



コーヒー協会主催『Festival Kafe Timor』のキャッピングコンペで表彰されるココマウ

コーヒー生産者の声

ジャヌアリオ・マリア・ロベスさん(クロコ集落)

今年のコーヒーの実の付き具合はまずまずです。古い木ほど実の付きが悪く、植えてから3年目の新しい木はよく実っています。ココマウを通じて得られる市場には満足していますが、毎年、天候の影響で収量が激しく上下し、収入は安定しません。コーヒーの木が古いほど収量も不安定になるので、新しい苗をコーヒー畑から移植したり、古い木を山刀で切って新しい芽を育てたりしています。これからもココマウを信頼して収入の向上に取り組みたいです。

ジャヌアリオさん(左端)



ジャヌアリオさん(左端)

課題として共有されるようになり、今回のコーヒー協会設立に結びつきました。

ココマウ(マウベシ・コーヒー生産者協同組合)とコハル(サココ自立組合)はコーヒー生産者として、パルシックは輸出業者として、それぞれに協会理事に選任されました。コーヒーの品質改善努力を続けると同時に、コーヒー畑の改善による収量の回復に取り組み、東ティモールコーヒーが世界中の市場で高く評価してもらえよう、他団体と協力して知恵を出し合っていきます。(伊藤 淳子)

■PIFWANITAの成長とPIFWAの環境教育への取り組み

PIFWA(ペナン沿岸漁民福利協会)の女性グループPIFWANITAのメンバーたちは、2014年から3年間取り組んできたマングローブ製品の販売を通じた生計向上と生活の改善を目指した事業の実施を通じて、たくましく成長しました。グループで協働していく

中で、メンバーの女性たちは様々な課題に直面してきました。「会計簿のつけ方がわからない」、「メンバーの多くが会議にこない」、「ジャムをつくった日の賃金をもらっていない」などなど。尽きない悩みを抱えながら3月11日、生活の改善に関する最終イベントを迎えました。村の広場で約100人の村人を前に堂々と「栄養と健康」をテーマにしたプレゼンテーションと試食会を開催しました。油や砂糖を極力減らした食事は村人からは賛否両論でしたが、人びとの意識は高まりました。これからは、マングローブのジャムやお茶を中心とした村の産品を流通させていくために「生協」をつくれなにか模索をはじめています。

一方で、PIFWAの植林活動は定着しています。CSR(企業の社会貢献)による植林活動のほか、近隣の小中学校で環境教育の一環としてマングローブ植林を位置づけ、学校の活発な参加を促そ

うと取り組んでいます。学校に予算もないことから進まず、PIFWAのイリアス代表を悩ませています。

若いPIFWANITAが成長し、PIFWAと協力関係を進めていくことで、PIFWAの世代交代と活性化が進めていけるのではないかと期待しています。(大塚 照代)

(PIFWAの植林事業は、イオン環境財団の助成と、皆様からのご寄付で実施しています。PIFWANITAの事業は、味の素「食と健康」国際協力支援プログラムの助成と、皆様からのご寄付で実施しました。)



堂々とスピーチをするPIFWANITAメンバー

パルシックは、対等な交易を通じて、人と人のつながりと信頼を広げていくことが紛争の抑制、平和の形成に寄与すると考えています。

『アロマ・ティモール』の効能と飲み方

本格的な夏を控え、緑が色濃くなってきました。蒸し暑かったり、肌寒かったり……。体調管理が大変なこれからの時期に、ハーブティーはいかがですか。気分のリフレッシュにも一役買います。東ティモールで古くから伝統薬として利用されてきたハーブを集めた「アロマ・ティモール」は全5種類。今回はそのうちの2つをご紹介します。



初夏に
おすすめ♪

アロマ・ティモール 全5種類
ツボクサ&ミント
アボカドリーフ&ライムリーフ
月桃
レモングラス
ハイビスカス(*20g入)
各30g入 700円(税別)

アボカドリーフ&ライムリーフ お腹の調子を整えるハーブ

東ティモール人のお家の庭でよく見かけるアボカドの木。実はサラダなどとしてそのまま食べますが、葉は「お腹の調子が悪いときに煎じて飲む」のだそう。それを知ったのがこの商品化のはじまりでした。アボカドリーフに、ライムリーフを混ぜた爽やかな香りのハーブティーです。

☆飲み方のポイント 茶葉が固いので、抽出はゆっくりと。ポットに茶葉を入れて、5分以上蒸らしてください。また水出し茶としても最適です。目安は500mlの水にティースプーン山盛り10杯分ほどの茶葉を入れ、一晩寝かせます。



「アボカドの葉ってどんな味？」とよく聞かれます。こんな色味です、味は…、ぜひ飲んでみてください！

マイボトルなどに
入れて
持ち歩きにも♪

月桃

内側から調子を整える、心と体にやさしいハーブ

ショウガ科の「月桃」は体を温める効果があるとされます。夏の室内、冷房で冷えた体におすすめです。美肌効果のあるハーブとしても知られています。香りには心を落ち着ける効果も。

☆飲み方のポイント ポットに入れて5分蒸らす方法の他、煮出していただくのもおすすめです。水500mlに、ティースプーン山盛り5~8杯ほどの茶葉を入れて、火にかけます。沸騰してから蓋をして、とろ火で10分ほど、火をとめてから10分蒸らします。

.....ハーブティーをつくる女性たちの1コマ.....



その1 加工作業

アロマ・ティモールのひとつ、ハイビスカスをカットしながら、色々な話に花を咲かせます。女性たちが外に出て過ごす貴重な時間です。



その2 納品

女性たちが直接手にする収入は子どもたちの学校用品や食費に使われることが多いです。ジョアニーナさんはお家にソーラーパネルを付けました。

パルシック・マウベシの事務所へいくつもの袋をもった女性たちが続々と納品にきます。週に1回、遠い人は4時間も歩いて(!) 来ます。話を聞くと「そんなに大変じゃないわよ、近所の人と持ち回りで分担してるし、ついでに買い物もできるし」と。たくましい!



その3 収入を得たら

名古屋 フェアトレード イベントに参加!



5月13日(土)、『世界フェアトレードデー・なごや2017 フェアトレードコーヒーサミット』に参加してきました。世界各地のフェアトレードコーヒーを飲み比べることができるほか、フェアトレードの現状や新しい試みなど、貴重な情報交換をすることができました。名古屋は2015年、日本で2番目に誕生したフェアトレードタウンです。日本で様々な取り組みがなされ、フェアトレードの輪が老若男女に広がっていることを実感しました。ブースを訪れてくれた方には、商品の背景や活動を丁寧に説明し、多くの方々に知っていただける有意義な機会となりました。また、『飲み比べて美味しかったから買いにきたよ!』『東ティモールコーヒーのファンだよ!』というお声をいただき、とても嬉しかったです。ブースをお手伝いくださった皆様、本当にありがとうございました!

Webサイトリニューアル!!

Webサイトをスマートフォンやタブレットからも見やすくするために、レスポンスサイトへとリニューアルしました。

このリニューアルに向け、制作チームはパルシックがこれまで発信してきた情報、今後発信すべき情報とそれらの優先順位を一から整理しなおし、時間をかけてとことん議論を続けてきました。当初の予定から大幅に遅れましたが、ようやく4月にリニューアルすることが出来ました。



今後はコーヒーや紅茶を作っている農家や、シリア難民の声、背景のストーリーが伝わっていくように充実させていきます。また長年の事業地の東ティモール、スリランカ、マレーシアなどはその地域の食や文化などの情報も載せて、人と人との交流が進むことをお手伝いできるWebサイトを目指していきます。

見やすくなったWebサイトをぜひご覧ください!

マレーシアへのスタディツアーを実施しました

2016年12月に、マレーシアのペナン・イポーを訪れる「人と暮らしに出会う旅」が開催されました。

▼ マレーシアツアー

開催日程：2016年12月24日(土)～12月29日(木) 6日間

マレーシアツアーには5名の方が参加され、植林活動や村でのホームステイを経験していただいたほか、マレー系、インド系、中華系が共生する多文化社会に触れたり、開発によって引き起こされる問題を考えたりする機会にもなりました。

「人と暮らしに出会う旅」は2017年度は8月と12月にスリランカ、東ティモール、マレーシアへの計4つの旅を企画しています。



シリア難民支援/パレスチナ支援の事業報告会を開催しました

2017年2月10日(金) 於 毎日メディアカフェ

トルコで見たシリア難民の現状

スピーカー：トルコ駐在員 大野木

2015年10月からトルコ南部シャンルウルファ県で実施しているシリア難民支援で、実際に現地でのどのような活動をしているか、またシリア難民が置かれている状況をお伝えしました。定員30名ほどのコンパクトな会場には、定員を超える参加者にお越しいただくことができました。参加者からは、「報道だけでは伝わらない現状が生々しく伝わってきた」「シリア難民のために、自分に何ができるかを考えたい」など、みなさまにパルシックの活動に深く共感していただくことができました。



2017年5月12日(金) 於 連合会館

パレスチナの今日——西岸・ガザの占領から50年、ガザ戦争から3年

スピーカー：京都大学大学院 人間・環境学研究所教授 岡 真理さん

パレスチナ駐在員 盛田/廣本

2014年の戦争を契機に開始したガザの復興支援と、2016年から西岸で開始した循環型経済支援について2名の駐在員から報告すると同時に、2人の恩師でもある岡真理さんからパレスチナが直面している構造的暴力についてお話いただきました。初めてのパレスチナ集会にもかかわらず、大勢の方にお越しいただきました。最近あまり報道されなくなったパレスチナの状況をお伝えできる有意義な機会となりました。



皆さまのご支援によって 支えられています

パルシック会員募集

パルシックの趣旨に賛同し、総会等を通じてパルシックの活動に参加していただける会員、賛助会員を募集しています。

年会費 会 員：10,000円

賛助会員：20,000円

入会ご希望の方は電話・メールで下記までお問い合わせください。

寄付のお願い

あなたの寄付で、パルシックの活動を支えてください。事業地を指定してご寄付いただくこともできます。みなさまからのご寄付をお待ちしています。

●クレジットカードでの寄付

Webサイトよりクレジットカードでの寄付を承っております。
<http://www.parcic.org/donation/donate/>



クレジットカード寄付
QRコード

●郵便局からの寄付

郵便振替口座：00140-8-536957
口座名：パルシック

●銀行からの寄付

三井住友銀行 神田支店(普) 2384136
口座名義：特定非営利活動法人パルシック

※銀行からお振り込みの際は、ご住所とお名前をご一報ください。